

## 16.防災訓練を実践的なものにする

災害時を想定して、災害訓練は定期的に行われていることが多く、その内容は多岐に亘っていますが、最近は参加者が少ない、お祭りになっている、マンションの住民が出てこない、実践的でないなど多くの意見を耳にします。これからは、目標を明確にして実践的なものにする必要があると思います。

まずは、地域の防災マップを作って共有する必要があります。防災マップを自分たちで作成することで地域の災害リスクを明確にするという立派な訓練となると思います。実際に自分の足で確かめておくことが重要なことで、家族で歩いてみると、様々な視点で地域を知ることになります。

次に、情報の伝達について、行動を起こすまでのプロセスで地域で可能なことは何か、それを模擬訓練することが必要だと思います。そのためには、情報についてしっかりと学習しておくことが重要となります。災害時には、多くの情報が飛び交いますが、これを適切に整理しないと、自分に都合の良い情報にすぎたくなりますので、その整理には、何が起きていて、どうなるのかを理解して早期避難や備えにつながるようにしなければなりません。

三つ目は、訓練として避難所の設営や、運営してみることでさまざまな課題や問題点が見えてくると思います。大事なことは、地域に訓練の趣旨を理解していただいて多くの住民が参加できるようなものにする事です。実際に避難所では様々なことを様々な人々がかかわることで自主管理する必要があります、いざというときに行動を起こせるようにすることが求められています。東日本大震災でも経験したことです、行政との連絡が一番に難しかったようで、だれが何をどうするのかを明確にしておかないと、前に進みません。その時に一番に困るのが様々な弱者だったとも言われています。震災前から地域住民とのコミュニケーションが密接で、コミュニケーション活動が活発なところでは、すぐに分担を決めて適切な対応による行動ができたように感じました。

これらから、避難所運営は自分たちで自律的に行うことになり、それなりの事前の備えが必要ですが、実際に訓練として模擬的に実践する中で、問題点や課題を見つけて解決しておくことです。そうすることで、自分たちが一番重視すべきことや守るべきことが明確になり、情報の共有が進むものと期待できます。

これまで、3つのことについて述べましたが、共通するのは、まず自分たちがどんな地域に暮らしているのか、その災害リスクは何かを知ることが必要なことで、自分たちの町や環境を知り尽くしていることが望ましいことになります。その辺を頭に入れて、防災訓練をしていかないと実際のことに結びつかないことになります。今後は、災害が発生すれば一斉に避難所に向かうというよりは、様々な選択をされる人が多くなると考えられますし、避難したくても避難できない人も出ます。地域の人が公平に安全と安心が得られるようにするために、避難所がキーステーションになって目配り、気配りをしておけるようなプロセスを学ぶ機会を繰り返し設けて訓練しておきたいものです。